

あすなろ

熊谷女子高等学校
図書委員会
第705号
2023年12月19日発行

Impossible is Nothing

クリスマス

もうすぐクリスマスです。ね。みなさんはクリスマスマスのご予約ありますか？受験が控えている人、部活がある人、パートナールの人、彼はなにしているの？、最高のJトライトを満喫している人、せまじまだと悲しみますが、充実した日になればいいなと心から願っています。

師曰く 「小確幸」

「今日は部活がオフです♡」今朝、髪がいい感じに決まりました♡といった日常の些細な幸せをよくクラス日誌で見かけます。高校生らしいなあと特に気に留めることはなかったのですが、最近、「小確幸」という言葉を知り、意識が変わりました。村上春樹著「うすまき猫の見つけ方」に「小確幸(小さいけれども、確かな幸福)」という言葉が登場します。

「生活の中に個人的な小確幸を見出すためには、多かれ少なかれ自己規制みたいなものが必要とされる。例えば

クリスマス

クリスマスは古代ローマ帝国時代起源の祭りに由来しています。冬至の時期に光の祭りと呼ばれ、行軍を行くミトラ教が元まり、その時期にキリストの降誕祭をセウラ、と制定された日は、月夜月夜、たそがれです。



世界の

サンタマン



アメリカ。みんなが知ってる赤い服を身にまとったサンタマン。

フランス。

マドリ、ノエルと呼ばれる子歌いながら贈り物を届けユザンタ。

スペイン。

「パフ、パフ」と呼ばれる贈り物を配り歩く魔せサンタ。



「ぼ我慢して激しく運動した後には飲むビールみたいなもので、(略)一人で目を閉じて思わず眩いしてしまう感覚、それがなんといっても小確幸の醍醐味である。そしてそういった小確幸のない人生なんて、かすかすの砂漠のようなものに過ぎないと僕は思うのだけれど。」
みなさんも一度、自分の小確幸を考えてみてください。他の人に理解されないかもしれないかもしれませんが、自分の小確幸を噛みしめて、どうか、かすかすの砂漠みたいな毎日を通して生きてください。余談ですが、この言葉は台湾、韓国、中国で流行し、日常の会話でも当たり前のように使用されているらしいです。

☆このコーナーは熊女の先生から生徒たちへのメッセージです。

おすすめの本紹介

「おいしいごはんが食べられますように」

高瀬隼子

くあらすじ

「二谷さん、わたしと一緒に、芦川さんにいじわるしませんか。」心をぎゅぎゅとせる、仕事十食ハモの十恋愛小説。

職場で二谷さんと、皆が仰りたくる存在で料理上手な芦川さん、仕事ができてるが、はり屋の押尾。ままたらな人関係、食ハモの心を遠く描く傑作。

表紙からは想像できない微妙な人間関係が描かれています。二谷、二谷に芥川賞を受賞した作品です。ぜひ読んでみて下さい。



冬が来た

高村光太郎

さ、ぱりと冬が来た
八つ手の白い花を消え
公孫樹の木も葉になた
さりまりともみ込めような
冬が来た
人はいやがらるる冬
草木に背かれ、
虫類に逃げらるる冬が来た

冬よ
僕に來い、
僕に來い、
僕は冬のカ、
冬は僕の餌食だ
し、透水、
つぎぬけ
火事をいせ、
雪で埋めろ
刃物のやうな
冬が来た
詩集「道程」より

